



* 「不登校の要因」に関心をお持ちの保護者さんがたくさんいらっしゃると思い、レポートしました！

どうして、わが子は、学校に行けないのだろう？ 「不登校の要因」となっているものは、・・・何か？

子どもさんが学校に行けなくなり、・・・

「どうして、うちの子が、・・・」と疑問や不安を感じて、
インターネットや書籍などの様々な方法で、

「不登校の要因」について調べている保護者さんが、たくさんいらっしゃると思います。



そこで、6月のたよりでは、「不登校の要因」に関する代表的な調査を3つ取り上げ、
「どのようなことが、不登校の要因として考えられるのか」についてお話ししていきます。

◆文科省の調査による「不登校の要因」とは、・・・？

「不登校の要因」については、文科省が、毎年、実施している
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が、全国的に、
一般的に、広く、参考にされています。

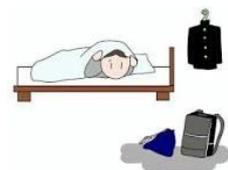
教育委員会や学校などの公的機関も、この文科省調査を参考にする立場にあります。

2022年度の調査によると、全国の不登校児童生徒の「不登校の要因」は、多いものから、

- ① 「無気力・不安」が51.8%
- ② 「生活リズムの乱れ、遊び、非行」が11.4%
- ③ 「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が9.2%・・・となっています。(注1)

「いじめ」は0.2%、

「教職員との関係をめぐる問題」は1.2%と低い割合となっています。



しかし、この文科省の調査結果は、多くの教育専門家から、その「信頼性」が問われています。
その理由の一つが、回答者が不登校の児童生徒自身ではなく、学校の教員だからということ。

ですから、私は、文科省調査による「不登校の要因」に関するデータは、・・・
参考にすることはあっても、その結果には、あまり信頼を置いていません。

もし、「不登校の要因」の理解を取り違えていると、

教員も保護者も、児童生徒に、ちぐはぐな対応をすることになるので、注意が必要です。

もしも、その要因がいじめの場合は、ていねいな対応と配慮が不可欠です。

そのようなとき、・・・ムリに、学校に行かせるようなことがあってはいけません。

◆NHKの調査による「不登校の要因」とは、・・・？

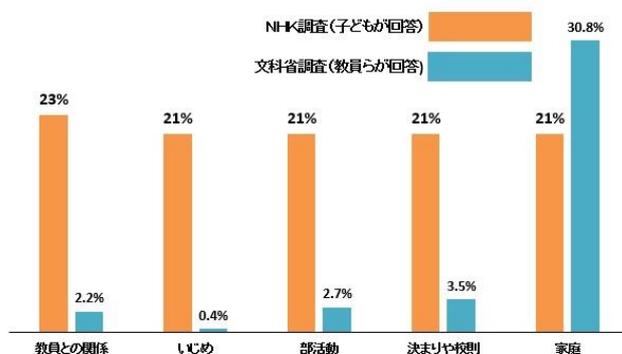
一方、NHKは、2019年（令和元年）、「Line」を活用し、2018年度に不登校、あるいは不登校傾向であった中学生1,968人を対象とした調査を行いました。（注2）

「不登校の要因は何ですか？」という質問に対して、・・・

- ・「**教員との関係**」と回答した中学生が、**23%**（下表の**オレンジ色**の棒グラフ）
- ・「**いじめ**」と回答した中学生が、**21%**
- ・「**部活動**」と回答した中学生が、**21%**
- ・「**きまりや校訓**」と回答した中学生が、**21%**
- ・「**家庭**」と回答している中学生が、**21%**・・・という結果でした。



不登校の要因に関するNHK調査と文科省調査の比較
（編集部作成）



このNHK調査からは、・・・

「教員との関係」「いじめ」「部活動」など人間関係に関することが「**不登校の要因**」となっているケースが多いことが分かります。

上述した文科省調査では、・・・

「教員との関係」などの人間関係に関することには、あまり着目されていません。

◆文科省とNHKの調査結果には、大きなギャップがある！

また、上表のNHK（**オレンジ色**）と文科省（**水色**）の調査結果を比較すると、・・・両者間に**大きなギャップ**が見られる項目があります。

例えば、「**不登校の要因**」として「**教員との関係**」と回答している中学生は、NHK調査では**23%**もありますが、文科省調査では**2.2%**しかありません。

「**いじめ**」、「**部活動**」、「**きまりや校訓**」、「**家庭**」においても、・・・

NHKと文科省の調査結果に、**10%～20%**も**ギャップ**が見られます。



読者の皆さんは、どちらの調査が、中学生の実態を正しく映し出していると思いますか？

◆子どもの発達科学研究所の調査による「不登校の要因」とは、・・・？ ①

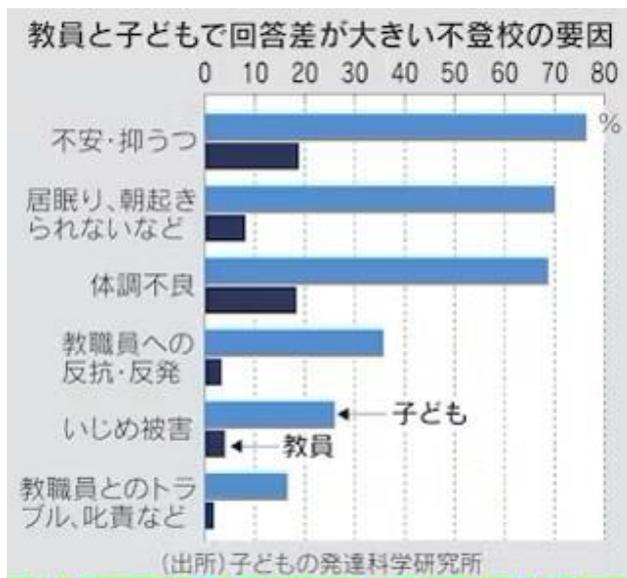
このような調査結果の「信頼性」の問題を背景に、・・・

文科省は、「不登校の要因」についての調査を、子どもの発達科学研究所へ委託しました。

それを受け、子どもの発達科学研究所（大阪市）は、2023年7～8月に、

大阪府吹田市、広島県府中市、宮崎県延岡市、山梨県において、2022年度に小3～高1だった不登校の児童生徒（239名）と保護者、当時担当教員らを対象に、ヒアリングも含めた調査を行いました。これは、公的機関が行った**最新の調査**となります。

結果は、下表のとおりです。



NHK 調査と同様、この調査においても、

「不登校の要因」について、

児童生徒の認識と、教員の認識との間に、**大きなギャップ**があることが分かります。

例えば、「不登校の要因」について複数回答で尋ねたところ、・・・

「教職員への反抗・反発」、「いじめ被害」、「教職員とのトラブル・叱責など」とする回答は、教員はわずか**2～4%**でしたが、不登校の児童生徒と保護者は**16～44%**もありました。

◆子どもの発達科学研究所の調査による「不登校の要因」とは、・・・？ ②

この調査の中で、**着目すべきことがあります。**

それは、・・・

「不登校の要因」として、「不安・抑うつ」、「居眠り、朝起きられないなど」、「体調不良」といった**心身の不調に関する項目**が、**新たに**つけ加えられていることです。



さらに着目すべきことは、・・・

「**不登校の要因**」として、

「**不安・抑うつ**」、「**居眠り、朝起きられないなど**」、「**体調不良**」などの**心身の不調に関する項目**を回答している児童生徒が、それぞれ**70%**もあるということです。(注3)(注4)

このような**心身の不調**に目を向けた調査は、今まで、ほとんどありませんでした。保護者も教員も、カウンセラーも、あまり目を向けることがなかったのでは、・・・と思います。

◆「**不登校の要因**」についての理解が深まれば、・・・より適切な対応ができるようになる！

不登校の児童生徒への理解が深まれば、・・・その分、適切な対応ができるようになります。「**不登校の要因**」の理解も深まれば、・・・その分、適切な対応ができるようになります。

お伝えしてきた「**不登校の要因**」を参考に、子どもさんの理解をさらに深めていただき、子どもさんの心に響く関わり方を積み上げていっていただきたいと思います。

そのような安定した関わり方の中で、子どもさんが「**心の安定**」や「**心の元気**」を取り戻していけば、学校への再登校は自ずと見えてくる・・・と、私は、体験的に、そう考えています。



文責 西村明倫 不登校カウンセリング&セラピー「**クローバー**」代表
公益社団法人日本心理学会認定心理士、メンタル心理カウンセラー
一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト

参考文献・資料等

注1 令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」 文部科学省

注2 「不登校の要因に関する NHK 調査」 2019.5.3~5.9 調査協力「LINE リサーチ」

注3 「子どもが伸びる！自律神経の整え方」 小林弘幸 2022.3.10 きずな出版

- ・自律神経の働きが乱れたとき、「不安・抑うつ」、「居眠り、朝起きられないなど」、「体調不良」といった心身の不調が起こりやすくなります。
例えば、不登校の児童生徒の中には、それらの症状を含む「起立性調節障害」の診断を受けるケースがよくありますが、それは自律神経の働きの不調によるとされています。
- ・自律神経がバランスをくずす要因は、精神的ストレス、過労による肉体疲労、睡眠不足、偏った食事などとされており、日常生活のふり返りも大切とされています。

注4 「GW も規則正しい生活を」 西村明倫 2024.5.4 日本海新聞